

中まま第 165 号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 様

中頓別町長 野 邑 智 雄



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

紅葉の候 益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃から町行政の推進につきまして、ご理解とご協力を賜りますことに厚く
お礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号でご依頼のありました件に
つきまして、別紙のとおり回答します。今後の道路行政を進める上で反映して
下さいますようお願い致します。

(まちづくり推進課)

担当：小林、工藤

〒098-5595 中頓別町役場

TEL 01634-6-1111 FAX 6-1155

1, 農山漁村・過疎地域の位置づけ

いま、日本の農山漁村は疲弊し苦しんでいます。地域の核である第1次産業は高度成長期以降、構造的に常に弱い立場にたたされ続け、その他の産業も含めて地域経済の衰退が顕著になっています。また、かつて経験したことのない少子高齢化も進み、そこに暮らす住民生活の不安は膨らんでいます。

しかし、農山漁村は国土の保全国土の食糧供給など、さまざまな機能を持ちその役割を担っていますし、さらにこれからの日本社会全体で、その役割は益々重要になっていくものと考えます。

2, 道路と費用対効果

こうした農山漁村は、明らかに都市とは違う機能・役割を有するもので経済構造そのものが違っています。その違いを踏まえないまま、一律の物差しで道路建設や維持にかかる費用対効果を論じ、道路計画が作られる流れにあることを危惧せざるを得ません。

貨幣価値では計れない農山漁村の価値を評価し、その価値を守り、高めていくために、農山漁村に暮らす人だけでなく都市住民も費用の負担をするという目に見えたしくみを作っていくことが必要だと考えます。

3, 道路特定財源と道路計画

道路特定財源を主な財源に整備されてきた道路は、基本的には、その経済性などから費用対効果の高いところから整備されてきており、そのため都市部と離れた位置にある農山漁村はずっと後回しにされてきています。すべての道路はその地域だけでなく国全体として必要なものであり、あまねく国民がその利益を享受できなければなりません。農山漁村に暮らす人々は、救急搬送や高度な医療を受けられないなど大きな課題を抱えつつも、こうした優先順位を受け入れ道路整備が自分たちの地域に伸びていくことを待ち続けていました。

道路特定財源が一般財源化されることの是非はともかくも、その財源でめざした道路整備全体のビジョンは、最後まで貫徹されなければならないと考えます。計画の中で必要がなくなった道路をやめることは当然ですが、費用対効果だけを論じ、地方にとつて必要な道路整備をしなかつたり著しく遅らせるようなことがあってはなりません。

国は、農山漁村の機能と役割の持続、それを踏まえた都市農村交流の創出など貨幣価値に置き換えられない価値を大切に評価した上で、国土全体のグランドデザインを基にした道路整備計画を立てるよう希望します。

○現状

- 1, 過疎と少子高齢化
昭和 20 年代に 7,500 人を超えた人口が、現在はその 3 分の 1 にも満たない 2,106 人（平成 20 年 9 月末現在）となり、さらに今後も減り続けていく見通しとなっている。
また、少子化、高齢化の傾向は顕著で高齢化率は 30% を超える水準になっている。
- 2, 産業の衰退と雇用機会の減少
農業は、酪農への転換と規模拡大で生産量を維持しつつも担い手である農業者数は減少している。
林業をはじめ、製造業、商業などその他の産業の衰退は顕著で、若者の就労機会の喪失が著しい。また、近年では厳しい経済財政環境のなかで公共事業の大幅な削減が余儀なくされ建設業が厳しい環境の立たされている。

3, コミュニティの機能と地域活力の低下

過疎化と高齢化、産業の衰退にともない地域生活を支えるコミュニティがその担い手不足などから従前持っていた機能を維持できなくなるとともに、地域社会全体が活力を失ってしまっている。

○課題

- ・ 過疎化防止
 - ・ 少子化対策、子育て環境の整備
 - ・ 保健・医療・福祉の連携によるサービスの充実
 - ・ 生きがいを支える生涯学習の推進
-
- ・ 企業誘致、起業化の促進
 - ・ コミュニティビジネス創出等による雇用機会の創出
 - ・ 建設業等の新分野進出などによるソフトランディング
-
- ・ 町民と行政の協働によるまちづくりの推進
 - ・ コミュニティの再生

※ 第6期中頓別町総合計画「一流の、中頓別づくり」の基本理念から

1, 農林業を基本に活力ある産業を創出し、自然と共生する地域をつくります

農林業はあらゆる産業の基本であり、豊かな自然を守りつづけるためには、なくてはならない大切なことです。私たちは、この農林業を町の基本産業として、しっかりと守り育てていきます。また、これを核に商工業の振興、地域にある資源を活かした新しい産業の創造、雇用の創出、都市との交流などを図り、人と自然とが共生する力強く、魅力ある地域づくりを進めていきます。

2, みんなが健康で、豊かなころを育むべしをつくります

未来を担う子どもたちの健やかなところからの成長を育むとともに、誰もが、生涯を健康で安心して暮らすことができる町をつくらします。

医療、保健、福祉が連携した総合的な地域福祉をめざし、施設の整備ときめ細やかなサービスの充実を図ります。また、さまざまな学習機会を町民とともににつくりながら、まちづくりを担う人を育てていきます。

3, ひとりひとりが主体的に役割を担う新しい自治のしくみをつくります

自己決定・自己責任の分権型社会で進める地域づくりとくらしづくりは、情報公開と住民参加を基本に、町民が主体となる新しい自治のしくみで実現していきます。小さな自治体を取り巻く厳しい環境のなか、生涯学習を積極的に推進し、町民だけでできることは町民が担い、そうでないことは町民と行政の役割分担を明確にして公共的課題を解決していく、町民と行政による「協働」のしくみをつくりあげます。

中頓別らしい個性豊かな地域文化を創造し、誇りを持てるまちをつくらします

きらりと光る地域の個性と中頓別らしい地域文化の創造を、この町の良さをもう一度見つめ直すことから始めます。そして、自然と共生する地域づくり、豊かなころを育むくらしづくり、それらを進めるための新しい自治のしくみづくりをおして磨き上げます。「住んでもよかった、これからも住み続けたい」と思える中頓別、心から誇りに思うことができる中頓別を、この基本構想の実現をおして築きます。

地域の将来像のために必要な社会資本（道路）整備

良好な高速交通ネットワークへのアクセスを確保

地域間の交流を支え、美しい自然景観に溶け込んだ広域交通網の整備

高齢者・障害者等の社会参加を進めるバリアフリー化の推進

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・豊かさを実感でき きるくらしづくり	・地域医療の充実 ・子育て環境の整備 →高速交通ネットワークの整備 →道路施設のバリアフリー化	・安心→ いつまでもここで暮らしたい ・こども→ もう一人産んで育てたい	
・地域活力の向上	・第一次産業(農林業)の振興 ・新たなビジネス機会の創出 ・ニューツーリズムへの展開 ヘルスツーリズム セカンドホームツーリズム →高速交通ネットワークの整備 →景観形成と一体となった道路整備 →広域的な道路網の整備	・人口→ 過疎化の防止 ・地域資源→ 新しい可能性の発見 ・雇用→ 働く場の確保 若者による起業化 ・交流→ 都市と農村の対流 長期滞在 団塊の世代の移住 二地域居住 ・誇り→ 地域の魅力を高める	